

1 評価の結果 成果と課題

(1) 学校運営に関わって

令和元年度の学校評価見直しに基づき、令和2年度は、児童・保護者・教職員による共通項目の評価を2学期末の12月に実施した。共通項目とは、子どもたちの元気度、学習指導・学級づくり満足度、安心・安全度、学校の開かれ度の4つである。それらの評価から、子どもたちや保護者の思いを把握し、教職員一人ひとりが、学級経営や授業実践、様々な教育活動の改善につなげるとともに、次年度に向けた課題を捉えることができた。

施設・備品等の環境整備では、予算に応じて、教科等指導に使う備品、設備等、教育活動に必要なものや、児童・教職員の健康安全に係る用具等は優先的に整備を進めてきた。その結果、全児童分のiPadの整備、教員用PCの更新、教員用椅子の更新等を実現することができた。一方で、予算の逼迫や、施設・設備の老朽化から突発的に生じた経費により、予算要望で長年叶っていないものも多い。これらは校費では対応できないところがあり、長期的に何を優先させるべきか、計画外のところに経費がかかることも起こり得ることを考え、引き続き計画的に大学に要望していく必要がある。

(2) 安全・安心な環境について

各学期の避難訓練を通じて、緊急時の対応について子どもたちに理解させることができた。全校での避難訓練の実施が難しい状況が続くため、各学年・各学級で真剣さのある取り組みをさらに進めていきたい。また、不審者対応の防犯訓練を行い、教職員の防犯意識の向上や防犯行動の確認を行うことができた。それに伴って防犯マニュアルの修正を行った。今後も引き続き防犯訓練を進め、さらに実践的に行動できるようにしていきたい。

いじめ問題については、子どもたちに年間2回アンケートを実施して早期発見に努めるとともに、必要に応じて個別の相談等も行った。また、児童の様子について定期的に情報交換を行うとともに、各学年で作成した経営案を基に全教員で共通理解を図りながら、一貫した指導を行うことができた。道徳教育について、推進計画を共通理解するとともに、授業を公開し改善を図るなどして、他者理解の力、寛容な心の醸成に努めた。

(3) 大学連携・附属間連携・地域連携について

大学連携の一環としての大学教員が参画した授業は、令和元年度まで複数の教科で行っていたが、令和2年度は社会情勢により大学教員が直接来校しての実施は困難であった。一貫教育においても、四附属学校園の共同研究を対面して進めることは難しかったが、研究委員会と連携し、4月と8月にzoomを使用して発達及びいじめ予防に関する研修会を実施し、各学校園での指導に生かした。

今年度は公開研究会を実施しなかったが、学部教員を助言者として研究を進めるなど、学部附属間の連携をとることができた。

地域連携の取組として、橋北中学校区における人権教育・健全育成等においてオンラインによる研修・情報共有等を行った。研究に関わっては、本校教員が市町・公立小学校校内研修会の講師として複数招聘される機会があった。

(4) 教育実習について

令和2年度は、2週間実習・4週間実習を合わせて、107人の学生が教育実習を行った。実習生が直接子どもたちと関わる教育実習は実施できなかったが、リモートでの指導案指導や授業参観・放

課後指導を行った。熱心に授業を参観し、放課後指導で発言をしたり、自分の指導案を何度も練り直したりする実習生の姿があった。大学における指導が、教育実践によりつながるものになってきており、実習生の様子も積極的・主体的になってきている。しかし、近年実習生の受入人数が増えてきていることも踏まえ、限られた時間の中で実習生への指導の質を維持・向上できるように、業務や仕組みの効率化等を一層進めていく必要がある。

(5) 教科研究について

令和2年度は、「学びに向かう力を育む授業～高め合う学級集団・教師集団づくり～」を研究主題とし、「学びに向かう力」をキーワードに研究・実践を進めることができた。各学期に全員が授業公開・研究授業をし、全体・合同・各教科・個人で検討を重ねてきた。また、教科・領域を越えての自主公開や他学級への参観がさらに増えていった。今後もこのようにして授業改善を図り、授業力を高め合うことを大切にしていきたい。

(6) 教育環境等について

令和元年度に PC 室の児童・教師用のパソコンが新設され、タブレットを活用した教材や授業動画の作成、iPad, AppleTV 及びデジタル教科書を活用した授業実践数が前年度に比べて増加した。また、プログラミング教育の授業実践が増え、教職員の ICT 機器の活用力も高まってきている。

運動場遊具の点検、樹木の剪定、校舎内外の修繕等も行い、より良い教育環境整備に努めた。

2 今後に向けて

数年前から、文部科学省より教育学部及び附属学校園の存在意義を明らかにするよう求められており、附属学校園ならではの教育カリキュラム、実践内容を創造し、地域に還元していくことが責務となっている。令和2年度は、社会情勢により、教育活動が制限されることが多かったが、令和3年度は、大学での学びと学校現場での学びがつながる教育実習、現代的諸課題を意識した教科等の研究、大学と連携した授業の一層の推進等、大学の附属小学校としての役割を果たしていきたい。

令和3年度の教科研究は、第40次研究2年次となる。本校の子どもの実態を起点に、前年度から積み上げてきた学級経営や授業規律、生活習慣等といった学びに向かう基盤に加え、各教科の特質を生かした授業改善を大切にし、2年次の公開研究会に向けて研究を進め、その成果を外部へ発信していきたい。また、津市内・県内の公立学校への講師派遣、出前授業等を増やし、地域・県内外の教育へ貢献していきたい。

安心な環境づくりにおいては、地震や津波、火事、不審者対応について、育友会や附属学校園間で連携しながら、訓練や学習に取り組んでいく。また、不審者情報については、附属学校園間・橋北中学校区での迅速な情報共有のためのさらなる連携を図っていきたい。加えて、教職員が健康で意欲的に職務に取り組むことができるよう働き方を見直すなど、安全衛生面についても一層配慮したい。

いじめ問題への取組については、『いじめ防止基本方針』を基に、教員研修、学習・生活規律の統一を徹底し、子どもと教員、子どもどうしの関係づくりを充実させ、未然防止に努めたい。

また、施設・設備の修繕・充実を大学へ要望し、教育環境等の一層の改善に努めたい。